



地球のいのちの営みと調和、融合して
共に生き合うコミュニティづくりの情報を発信する

いのちの森通信



財団法人
いのちの森
文化財団



Vol. 6
2008.JAN.

平成20年1月10日発行
編集 山下 薫

発行/ 財団法人いのちの森文化財団 〒380-0888長野市大字上ヶ屋2471番地2198 TEL 026-239-0010 FAX 026-239-0011
ホームページ http://inochinomori.or.jp Eメール zaidan@inochinomori.or.jp

誰にでも平等に やって来る死

やれアンチエイジングだ、やれメタボリックシンドロームだと喧しい昨今ですが、なにか違うな、とある種の違和感を覚えるのは私だけではないでしょう。

生老病死は生きとし生ける者すべてが辿る真実の道、自分だけ例外というわけにはいきません。いま、少しくらい若く見えても、一年もすると人並みに老いるものなのです。どこかでちゃんと帳尻は合ってしまうものなのでしょう。

そうだとすれば、アンチエイジングなんて、小さい小さい人間の計らいにすぎませんし、メタボリックシンドロームなんていつて、毎日腹囲を気にしながら生きていって、その先はどうなるのでしょうか。誰にでも平等にやってくる死に、どう対するか、この問題のほうがかはるかに大きいのではないのでしょうか。

養生とは？

昔の養生とは、たしかにこのレベルのものでした。目に見える身体に注目して、これを傷つけないように大事に大事に扱って、病を未然に防ぎ、天寿を全うするといった、どちらかというと消極的で守りの養生でした。

しむも死をもつて終わりです。こんな養生、なんだかつまらないと思いませんか。そこで、辞書を引いてみました。こんな筈ではないかと思つと、いつも初心に帰って辞書を引いてみることにしています。愛用する漢和辞典は『大漢語林』(大修館書店)です。

養生とは生命を正しく養うこと、とあるではありませんか。なあーんだ、そうだったのか。あらためていわれてみれば、そのとおりですね。養生の対象は身体ではなく生命だったのです。

心のときめきは… ようてい 医療と養生の要諦



帯津 良一 (帯津三敬病院名誉院長)

心と生命は わかりにくい存在

人間は身体、心、生命の三つから成るといわれています。身体は目に見、手で触れることの出来る、この肉体です。疑いの余地はありません。

一方、心と生命は目に見、手にとつてみることが出来ません。わかりにくい存在です。そこで、また辞書を引いてみることにしました。今度は『広辞苑』(岩波書店)です。

生命・人間の精神作用のもとになるもの。また、その作用。生命・生物が生物として存在し得るゆえの本源の属性として、栄養摂取・感覚・運動・生長・増殖のような生活現象から抽象される一般概念。いのち。念。いのち。とあります。なんだかすつと腑に落ちませんね。

生命とは何か？

そこで、ホリスティック医学を目指して二〇年、がん治療の現場で培ってきた、私の考えを述べてみましょう。あくまでも現在のところの考えです。これから先、変わる可能性は十分にあります。

生命とは生命場のエネルギーであると考えています。限られた空間に、ある物理量が連続して分布するとき、物理学ではこれを「場」とよんでいます。

電気という物理量が分布しているから「電場」、磁気という物理量が分布しているから「磁場」、電気も磁気も目に見えませんが、電磁場の存在を肯定する人はいないでしょう。

私たちの体内にも電磁場があります。重力場もあるでしょう。中国医学でいう「気」も分布しているかもしれません。すると「気場」ということになりそうです。しかし、「気」はまだ、その存在を科学的に証明されてはいませんので、気場とよぶのは、まだ時期尚早です。その上、気以外にも生命に直結する物理量がかくされているかもしれません。

攻めの養生の時代

そこで、これらの物理量あるいは場をひとまとめにして、とりあえずは、「生命場」とよんでいるのです。そして、その生命場のエネルギーが「生命」、刻々と変化する生命場の動きのなかで、脳細胞をおおして外部に表現されたものが「心」と考えられると、心の本体も生命場のエネルギーということになり、身体、心、生命の三つを身体と生命場の二つにまとめることも可能になります。

養生とは生命を正しく養うこととは、生命場のエネルギーを日々高めつづけることにほかなりません。現在地に満足することなく、日々、生命場のエネルギーを勝ち取っていく。以前の守りの養生に較べれば、はるかに積極的で、これこそ攻めの養生とよぶべきではないでしょうか。

そうです。これからは攻めの養生の時代です。日々是向上です。地道に一歩一歩、歩を進めて行くのです。

山あり、谷あり

歩を進めるといつたつて、いつも一定の速度で堅実にというわけにはいきません。人生と同じで、山あり谷ありです。一時的には後退を余儀なくされることもあるでしょう。それでも、ある時間的スパンで見れば上昇している。そのためには、時々、生命場の小爆発を起こして一気に駆け上がる、たとえば物理学でいうところの、「励起」のような状態を得ることです。

生命場の小爆発とはベルクソンのいう「生命の躍動(エラン・ヴィヴァル)」です。ベルクソンは、もともと生命の進化を説明するために、この言葉を用いたのです。が個体発生は系統発生をくり返す、です。一人ひとりの人間の内なる生命場も進化することには変わりありません。だから、このような用い方をしても、ベルクソンさんは決して怒らないでしょう。むしろ、そのとおり！と誉めてくれるのではないのでしょうか。

養生の要諦と医療の要諦

生命が躍動するとうなるか。まずはドキドキとする心のときめきです。生命が躍動するから心がときめくのか、心がときめくから生命が躍動するのか、まるで鶏と卵の関係のようですが、養生を果たしていく上で、この心のときめきほど大事なものはありませぬ。養生の要諦といつてもよいでしょう。



「養生塾」での気功講座

養生の要諦は同時に医療の要諦です。特にがんのように長い時間をかけて克服していく病には、この心のときめきがどうしても必要なのです。それなのに、がん治療に携わる医師たちはなかなか心のときめきを与えてくれませぬ。それどころか

医師自らが綴ったがんの体験 「落とし穴」

◎最高の医療を受けた満足度

帯津先生のお名前を知ったのは、今夏、肺癌手術のための入院準備の途中、病院の売場でふと手に取った「健康問答」という対談集でした。この本で先生に魅せられ、先生の最新刊「まるごと健康」を読んだところ、その中に「養生塾」の紹介があり、これは絶対参加しなくてはと肺葉切除直後にもかかわらず、7月の養生塾に申し込んだのです。

3年半前に40歳で目前に子宮悪性腫瘍で手術、その1年後には卵巣転移で腫れました。私も夫も医者のため、子宮癌・肺癌どちらの治療も、夫婦で文献を調べ、信頼のできる先生に治療をお願いし、主治医からも十分な説明を受け、議論し、納得のいく治療を受けてきました。最高の医療を受けた事への満足度は今も変わっていません。

◎「治してくれる」医療の限界

しかし、それが私の陥った「落とし穴」だったのです。自分で医療を選べる事ができ、その限界も理解している。病気を「治してくれる」のは医療であり、治らなければしかたのないことである。医師であるが故にそう考えがましい、自分が行う養生を忘れてい

心のときめきを患者さんから奪い取るようなことばかりしています。今の医療の問題点はここに集結されます。一人でも多くの医師が心のときめきを奪い取るのではなく与えるようになっていけば、がんはもはや怖い病気ではなくなることを請け合います。

おびつりょういち、医学博士、帯津三敬病院名誉院長。日本ホリスティック医学協会会長。日本ホメオパシー医学理事。調和道協会会長。いのちの森文化財団理事。水輪の会特別顧問。東京大学医学部第三外科、都立駒込病院勤務を経て82年埼玉県川越市に帯津三敬病院を設立。院長となる。医療の東西融合という新機軸を基に、がん患者などの治療に当たっている。また、代替療法への造詣が深く、治療に積極的に取り入れるほか、講演や大学での講義なども行っている。著書に『がんを治す大事典』(二見書房)など多数。

たのです。

帯津先生は、養生とは命の場のエネルギーを高める事、心のときめきこそ養生の要諦とおっしゃいます。私は自分の命に深く目を向けることもなく、医療のしてくる事を必死で探す努力だけをしてきたのです。養生塾は自分のいのち、さらには地球上のいのちのつながりへの気づきを促してくれました。それは帯津先生の話だけでなく、飯縄の自然、塩沢先生ご夫妻、そしてスタッフの仕事に打ち込む姿によるものでした。本だけでは伝わらない、まさしくエネルギーの高い場に身を置くことで初めて実感する事があるのだと分かりました。

養生こそ大切である事を見逃していた「落とし穴」。この穴に陥るのは私だけではないようです。現在、マスコミには医療への批判・不満と同時に、名医や最先端医療の紹介が目白押しです。「Aの病院は不満、でもどこかに治してくれる病院があるはずだ。」患者はその病院を血眼になって探さずには済まないのであるでしょう。か、「いのち」に関わる場所が「医療」に偏つてしまっているのです。これではいつまでも患者は受け身のままで、患者が自身自身のすべきことに気づき主体的に生きるためにも、これからは医療と「養生塾」のような場とのつながりが益々必要となつていくと確信しています。(齋藤とも子・医師)

【特集】現代医療の問題点と「心と体といのち」をとらえた医療のための提言

一人一人のいのちが光輝く調和の時代を目指して…



アルミニウムと鉛



②【ミムラス】原因が分かっている不安に

今回は、「医療」をテーマに各分野でご活躍の先生方から、またいのちの森文化財団の講座にご参加頂いた参加者の2名の方から大変率直な内容をご執筆頂きました。

読者の皆様も自分自身や、ご家族、周囲の方を思い浮かべて頂くと「医療」とは欠くことの出来ない分野かと感じます。その医療が「身体」を対象することを得意とする西洋医学一辺倒の医療から、「心」や「いのち」を捉えた「ホリスティック医療」・「代替療法」・「統合医学」が徐々に知られるようになって参りました。

自分の体が汚れている!?

ある意識調査では、日本人成人の約80%が何となく自分の体が汚れていると感じると答えたといわれています。

今、まさにデトックスブーム。美容院やエステサロン、レストランでもデトックスメニューを見つけている方が増えました。

一方、メディアでは温暖化対策の試みやその成果・予測について報道されない日はありません。もしかしら「体が何か変だぞ?」と感じる事、「環境問題に取り組みなければ大変な事が起こりそうだ」という不安は、いざいざ私たちの生命の本質に端を発する衝動かも知れません。今こそ自らの体も、母なる地球においても、ためこんでしまった汚れを大掃除する時、トータルデトックスの時だということではないでしょうか。

ライフスタイルが見える毛髪検査

私は一年前から、銀座サンエスベロ大森クリニックに勤務し、デトックスとフラワーエッセンスの臨床をしています。院長の大森隆史先生はTVや著書でも有名ですが、大変ユニークな医療を行なっています。

その特長は毛髪検査によってミネラルバランスをチェックし、そのデータを基に大変ていねいな生活指導を行なうことです。実は、毛髪検査からはその方の「食」をはじめとするライフスタイルが見えるのです。

例えば毛髪中の水銀とヒ素は、海産物、とくに大型魚をよく食べる人で高値をとります。海水中には水銀やヒ素が多く、生物濃縮によって食物連鎖の頂点にあるカツオやマグロやサケなどの大型魚、そしてそれを食べた人にも蓄積されるのです。

デトックスは単なる美容だけではない

がそろって高い場合は水道水由来と推定します。浄水場で、ゴミの沈殿に使うアルミ化合物と、水道管の内部にコーティングされた鉛が溶け出たものが残留しているのです。

その他にもたばこ、菌の詰め物、毛染めなど細かく問診した上で、解毒、排毒効果のある食品、食生活、運動、汗のかき方などについて指導します。

病気を治すには心を癒す…

～毛髪検査からフラワーエッセンスまで～



鶴一子 (医師)

※①～⑤はフラワーレメディィーのご紹介です



③【クラブアップル】自分が汚れていると思った時に

じめとする発達障害の子どもの症状が改善していくのをみました。今までは薬などで足りないものを補う事に関心が向いていましたが、土台を整えること。まさに目からウロコの「ひき算の健康法」でした。

シンプルで誰にでも使えるフラワーエッセンス

そしてもう一つ。フラワーエッセンスです。フラワーエッセンスは、約70年前に英国人医師、バッチ博士が完成した、野生の花のエッセンスを使った自然療法のシステムです。

バッチ博士は病気の根っこに心理的要因があると考えましたが、「病気を治す事には熱心ではあるが、「心」を癒す治療法が不十分だと気づきました。そして50才で亡くなるまでの数年間、その卓越した洞察力で、38種類のフラワーエッセンスを作り出しました。



①【ハニーサックル】過去の思い出にとらわれる方に

最も素晴らしい特長は、とてもシンプルで誰にでも使えること。副作用がないこと。バッチ博士はこうのように書いています。

「病気が私たちの生活や知的見地の変化を求めている自分自身の内的存在からのメッセージである。フラワーレメディィーは私たちが変化する真に幸福な生命の存在へと戻るのを助ける。」

医師自らが綴った家族の体験「現代医療の問題点」

西洋医学の恩恵と問題

私は今年で7年目になる内科医です。これまで臨床・研究にと西洋医学を自分なりに懸命に学んで参りました。医療の右も左もわからない研修医時代を過ぎ、少しずつ西洋医学の治療論理がわかり医師としての自分なりの治療方法を模索し始めた頃でした。

その明るく前向きな生き方に私が大きく影響を受けたことがわかりました。癌は大きくなっており、胃の出口を塞ぎかけている状況でした。私の勤めている大病院に入院することに決まり、信頼できる外科の先生に胃切除の手術をして頂くことになりました。手術は滞りなく終了し、幸い転移も認められ

れず外科的根治が得られ、病後も順調に回復し食事も少しずつ摂取できるようになりました。このまでの回復はまさに西洋医学の力によるものでありその恩恵を患者の家族という立場で再確認した思いでしたが、問題はその後でした。

病気は内的な気づきのチャンス

つまり病気は内的な気づきのチャンスであるということです。しかし現代でも病気は怖いもの嫌うべきものとして、その本質を見つめないまま、薬や手術で遠ざけてしまおうとしています。その方法で私たちは一体本当に病気を治し、心を癒し、そしてこの世に生を受けることができるのでしょうか。

フラワーエッセンスは自らの感情をみつめます。「私は今、腹が立っているからホリーが必要」「明日のテストが不安だからミムラスをのもう」「うあ、シヨック。レスキューレメディィー!」というふう

に、その感情にあったエッセンスを選んで服用するだけです。簡単です。しかし実はそのプロセスの中に「自分の心のくせを知る」



④【ホリー】他人に対して強烈な否定的感情を抱いている方に

むずかしい勉強や苦勞は必要ではなく、ただ自分自身に関心を持ち、私は私が大好き!と言えるようになること。これがフラワーエッセンスの役目です。きつと心のデトックスです。

地球も人間も、心も物質レベルでも解毒、執着をはずす時です。このたびいのちの森文化財団でセミナーを担当させて頂く事にな

る。西洋医学を一方的に批判する本(情報)が多い昨今ですが、西洋医学の恩恵と必要性を身を持って少なからず知っている私は、西洋医学と代替医療は役割がそれぞれ異なっておりそれぞれ謙虚に補い合うことが大切だという帯津先生のお考えに大変感銘を受けました。「いのち学」に参加させて頂きその思いはさらに強まりました。帯津先生のように真の治療を行える医師に少しでも近づけるよう努力していきたいと思っております。

「いのち学」にて

然な自分の内的な気づきのチャンスが訪れるのです。「シンプルである事」そしてバッチ博士が最も大切と考えた「セルフヒール」自身を癒すこと」が、このエッセンスが世界中で使われている理由でしょう。

私の英国人の知人は近所のマーケットで買った、テストの前にはみんなバック(Bach)を飲んでたよ、と言っていました。私たちが自分の心をつつめること、そして自ら癒すことを習慣にすれば、毎日テレビで流れる悲惨な事件は防げるのではないのでしょうか。



⑤【ワイルドローズ】「私の人生どうせこんなもの」と考えてしまっている方に

つるいちこ…内科に20年勤務後、現Y.H.C.矢山クリニック院長・矢山利彦氏のもとでバイオレソナンス医学を学ぶ。5年前に新しい医療のあり方、健康観について広く提案する為、天下伺明氏(ソニー)でアイボやCD等の開発に携わり、現在ホロトピック・ネットワーキ代表・作家、矢山利彦氏らとホロトピック・クラブを立ち上げる。又、大学や専門学校での教育に関わり、子ども達に起きている変化に危機感を持ったことをきっかけにホメオパシー、フラワーエッセンス、マクロビオテック、アントロポソフィイ医学、サイモントン療法、環境医学などを学ぶ。現在、デトックス医療の第一人者、大森隆史のもと、銀座サンエスベロ大森クリニックにてデトックス及びフラワーエッセンスを中心に診療を行う。

【特集】現代医療の問題点と「心と体といのち」をとらえた医療のための提言

心と身体といのちがかがやく医療とは？

→必ず「死」を迎える存在としての私たちです。「病」は忌み嫌うだけのものではなく、一つのプロセスであり、必ず、原因と意味が存在するのではないのでしょうか？そう捉えることで、そのプロセスの中で、「気づき」と「成長」を得ることが出来るでしょう。

生から死まで生き合うコミュニティの創造を目指すいのちの森文化財団は、本来の「いのち」が生き生き輝く視点から今回は「医療」を考え、各医療現場の先生方からの提言をしていただきました。

環境ホルモン問題の世界的拡大

1962年レイチェル・カーソンが『沈黙の春』で警告を発し、1997年、シニア・コルボーン(ダイオキシン等)問題、45年後の今も世界中に拡がり続け、時間の経過と共に、隠されてきたおそろしい姿をあらわし始めています。人間社会が生み出した矛盾の行き着く限界点が見えてきていくと予告する識者も出て来ています。

今、環境汚染の実態は？

農地に使われた化学物質は、地下水、河川、海へと流れ、農作物・海産物をすつかり汚染してしましました。私達の食物で、汚染ゼロのものには殆どありません。海の汚染もひどく、プランクトン↓小魚↓中型魚↓大型魚と食物連鎖で濃縮を続け、アザラシ・白熊・イヌイットへ到る頃は、大都会生活者より、ずっと高値のPCBが検出されるそうです。数十億倍という耳を疑う様な濃縮値の報告もあるとか。

私達日本人は、もう、どつぶり汚染の海にたかかって暮らしていません。食物からだけでなく、洗剤・シャンプー・化粧品等日用雑貨からの経皮毒、建材からのシックハウス症候群・電磁波汚染(TV・パソコン・ケイタイ・電機製品すべて)も複雑で深刻です。

日本人の体内有害化学物質調査、12種類すべて検出

環境省は、昨年1月12日、毒性



環境汚染の人体への影響

～どうのりこえて行ったらよいか～

吉田 昭子 (医師)



農地に使われた化学物質は、地下水、河川、海へと流れ、農作物・海産物をすつかり汚染してしましました。私達の食物で、汚染ゼロのものには殆どありません。海の汚染もひどく、プランクトン↓小魚↓中型魚↓大型魚と食物連鎖で濃縮を続け、アザラシ・白熊・イヌイットへ到る頃は、大都会生活者より、ずっと高値のPCBが検出されるそうです。数十億倍という耳を疑う様な濃縮値の報告もあるとか。

具体的な、どんな障害・疾病がおきているか！

いろいろな要素がからみ合った複合汚染になっていくから、説明は容易ではありません。

ば、白だとの説は、もう今では通じません。比較的わかり易い急性毒性水俣病、カネミ油症、イタイイタイ病、排気ガスによる喘息、ベトナム戦争時の枯葉剤(ダイオキシン)による奇形多発等々。

◎時間をかけて、現れてくるもの因果関係は証明困難なものが多い。更に汚染を受けた世代だけでなく、次世代に現れてくる事も多



の強い有害物質を規制する「残留性有機物質(POPs)」に関するストックホルム条約の対象になっている12種類すべての物質が、日本人から検出されたこと発表しました(母乳95検体・へその緒血液70検体・母親の血液50検体中)。

ごみ焼却場などから発生するダイオキシン類を除いて、国内での製造・使用はすべて禁止されていますから、分解されないまま環境中に残ったものが、食物等を通して、体内蓄積していること知られています。「量は微量ですが、健康への影響はないが、引き続き監視していきたい」との事です。

私達の毛髪からは、水銀・鉛・カドミウム等が殆ど検出されません。たぶんダイオキシンも(検査がむづかしい)程度の差はありますが、日本人すべてが汚染されているのです。(実は私もです)

▼環境ホルモンが引き起こすと思われる疾患
不妊・流産・子宮内膜症・生殖異常・精子減少・乳癌・前立腺癌の増加・性発達障害・子育て障害・自閉症・ADHD(注意欠陥/多動性障害)・アスペルガー症候群(知能は正常)・ウツ状態・不安障害など神経精神疾患増加

▼胎児・新生児期の脳は、血液脳関門が未発達なので、化学物質は入り易い。神経細胞は入れかわらないので排出される事はない。障害が、何年何十年後に顕われる可能性もありとの事。汚染を受けた母親から生まれた、ラットや子猿が、興奮し易く攻撃性が上昇、異常行動をみせるとの報告を聞く、最近のいじめ・きれるという子供・若者の行動が、共通性をもっていると思えます。そして理解不能な、異常犯罪などどこかでつながっているのでは、鳥肌が立ちます。もう一つのI・T時代、麻薬中毒と同様なドーパミン放出を来すネット・ゲーム依存症という脳内汚染が進行している事も見逃してはなりません。

環境問題は多くの人の関心を集めているが...

日本で環境問題は、たしかに多



くの人の関心を集めてきています。月尾先生が書かれている様に、とつくに定員超過になっている地球です。これから何がおきてくるか、想像するのもこわい程です。でも地球上に、人類が生き残るためには、私達一人一人が、現実をしつかり知る事。学ぶ事も大切で、そして解決の為、先ず出来ることから一歩をふみ出す他ありません。

元米副大統領アル・ゴア氏が昨年ノーベル平和賞を受賞した事もあって、地球温暖化防止問題は議論されています。でも環境汚染は、二酸化炭素を減らせば何とかなるといふ様な簡単なものではありませぬ。私達は、日常生活の中で、汚染を少しでも防ぎ、何を食べたらよいか、食べてはならないか、日用品をどう選んだらいいのか、体内に蓄積されている毒物をどうやって減らせばよいか、デトックス(体内浄化)の基礎知識を持つことも必要です。

幸い本屋へ行けば、具体的な指南書は、沢山見つかる筈です。勿論パソコンも使ってください。最初に書いた、シニア・コルボーン女史の『奪われし未来』の序に、当時はまだ米副大統領だったアル・ゴア氏がこう書いています。私たちが一人ひとりには、知る権利と同時に学ぶ義務もあるのだから。

よしだあきこ...医師。1929年東京生まれ。25才で15年間韓国ソウルで育ち、敗戦で引揚げる。1951年東京女子医専卒。1972年東京医学(鍼灸・漢方)と出会い、後遺症も学ぶ。80年代より環境汚染が疾患と深く関わっている事を痛感、環境問題にとりくむ。水輪で毎年行われているアントロポソフィイ医学ゼミナールに参加、現在シユタイナを勉強中。1973年より地球の全体像を知りたいと、続けて110回を越える。現在・タイオキシ環境ホルモン対策国民会議常任幹事。気の医学副会長・NPO気功協会代表世話役。

『思いやり』で遺伝子が動き病気も治る！

櫻井正智 (医師)

◎ここが遺伝子を動かす
ここが遺伝子を動かすことをご存知ですか？ここ数年で、人の遺伝子の解説が完了しましたが、これからは人のゲノムがどのようなたんばく質を発現させるかに関心が移っています。その中で感情によって発現する遺伝子もあることが判ってきました。例えば、「恋すれば美しくなる」なんて経験的に昔からいわれていますが、実際にここからの働きをきっかけに遺伝子が発現しそれに引き続き、ホルモン分泌を刺激するたんばく質が作られるのではないかと語られています。

笑いの免疫に対する影響がよく言われますが、糖尿病の患者さんを愉快な気持ちにさせると、食後の血糖の上昇を抑えられるという結果が出ています。これは、私が今一緒に実験計画を立てている筑波大学名誉教授の村上和雄先生の実験です。先生は、外界の刺激、つまり環境、人間関係、感情などにより特定のゲノムのスイッチがONになり、その結果、その影響に対するたんばく質の発現につながるという事です。この外界の刺激の一つである感情も皆さんの体のたんばく質を変える刺激の一つになっているのです。



◎体の遺伝子を観察
今、村上先生と私は漢方薬、しかも、いらいらに効く漢方薬や憂鬱な心を取ってくれる漢方薬を人に与えた場合、どのような遺伝子が働かかを観察しようとしています。実際、「病は氣から」とか、失恋したり、ショックなことが有ったりで、気がめいっている人は病気になる易いという事は世の中はなんとなく経験的に言われていることです。ただ、医学的、科学的

的に何の根拠がありませんでした。東洋医学の世界でも気持ち、感情、ストレスに漢方が効くことが3000年の経験上分かっているもそれを裏付けることは出来なかつたのです。その扉を今遺伝子が開けようとしています。

科学的根拠は無いけれど確かに効果がある治療法が世の中にはたくさんあります。そんな世界にこの遺伝子の技術を持ち込めば、今まで怪しいと言われていたようなものでも、体の遺伝子が変わることが観察されれば、より多くの人が納得しその治療を受ける人も増えるのではないかと考えます。...

◎一番の治療法は？
フラワーレメディーは人の心に影響すると言われます。そこから一歩進んで、人の心が他人に影響を与えることは当たり前ですね。人に不快な思いを残す人もいれば、心地良い思いを残す人もいます。物だけではない、書物や絵、風景名などからも人は何らかの影響を心に受けています。もちろんそれが生きていくということでしょう。つまりその人が関わっている環境が遺伝子の発現に関わり、その人のたんばく質の発現に大きく影響を与えている。つまり人は環境で作られているといっても過言ではないのではないのでしょうか？

もしかしらたら、一番の治療法はその人を思うやさしい気持ち、思いやりではないでしょうか？近い将来、その患者を思いやることも治療法の一つとして認められる日が来るかもしれません。(ホロトロピック・クラブ会報『ホロトロピックライフVol2』より抜粋)

さくらい まさとも・智伝会銀座診療所医師。日本東洋医学会専門医。佐賀医科大学医学部卒業。北里研究所東洋医学総合研究所勤務。消化器・一般外科を専攻後、米国ケンタッキー州立大学付属病院にて東洋医学の教育、研究に従事。帰国後、漢方服用後の遺伝子発現を観察する研究に力を入れており「オーダーメイド医療で効く漢方薬」の普及を目指す。

2008年いのちの森文化財団主催事業

～一人一人のいのちが光輝くために～

社会教育事業

愛と信頼のセミナー
 講師 芳村思風 先生
 4月18日(土)～20日(日)
 10月17日(土)～19日(日)

夫婦、恋人、あなたの大切な人とのコミュニケーション。本当の信頼と愛の関係はどうしたら築いていけるのでしょうか。心を通わせ、お互いを認め合う、そんな素敵な関係を築いてゆくためのセミナーです。心からの信頼と愛のために、今できることから始めましょう。



いのち学 (2008年)
 講師 帯津良一 先生
 3月21日(木)祝～23日(土)
 5月9日(金)～11日(日)
 7月11日(金)～13日(日)
 9月5日(金)～7日(日)
 11月28日(金)～30日(日)

医療を心といのちも含めた統合的な観点でとらえ直し、人生をより豊かに、いのちがいいきいきと輝く医療を志す方のための講座です。先生の医療に対する姿勢、心と西洋医学などを講義頂くほかに、先生と患者さんとのコミュニケーション現場を体験する臨床体験もあります。
 3月：医療と医学一癒しと治し 5月：医療者と患者の統合
 7月：医学と養生の統合 9月：生と死の統合
 11月：帯津三敬病院における実践ー現状とこれからー



養生塾 (2008年)
 講師 帯津良一 先生
 3月20日(木)祝～23日(日)
 5月9日(金)～12日(月)
 7月11日(金)～14日(月)
 9月5日(金)～8日(日)
 11月28日(金)～
 12月1日(月)

何度も参加する人がいるほど人気の高い講座です。免疫力・自然治癒力を高め、病を克服し、明るく希望を持って生きるための実践講座です。手術、サプリメント、代替療法、心の持ち方、不安への対処法、その他どんな悩みにも帯津先生が直接お答えする車座交流Q&Aの時間も設けています。また帯津先生の気功教室や楽しい講演もあり、心温まる講座です。食事は天然素材を活かした無添加薄味の健康自然食。生活における養生を学びます。



フラワーエッセンス&デトックス (2008年)
 講師 鶴 一子 先生
 5月16日(金)～18日(日)
 7月4日(金)～6日(日)
 9月19日(金)～21日(日)
 11月7日(金)～9日(日)
 2009年
 1月16日(金)～18日(日)
 3月6日(金)～8日(日)
 各回テーマの一部は→

フラワーエッセンスとは、約70年前、英国の医師エドワード・バッチ博士によって開発された自然療法です。恐れや不安、心配事などが病気を招く原因になっているという考えに基づき、野生の花の波動を転写した水を服用します。その花の持つエネルギーが心の欠点を洗い流し、心が調和することで身体も調和されるといふ癒しのシステムです。
 また、デトックス療法(体内に溜まった毒素を排出させるという健康法)も同時に学び、自分自身で心身を癒し健康を持続させていきましょう。
 5月：フラワーエッセンスとは 7月：なんじ自身をいやせ
 9月：体の構成要素と病気 11月：カルマの法則
 1月：他のセラピーとの協力 3月：想いと祈り



メンタルヘルス講座
 講師 巽 信夫 先生
 (2008年)
 2月15日(金)～17日(日)
 2008年度日程はこちら→

あの人のこと理解できなくて困っていませんか? 日々人の心にじかに触れあうお仕事や生活をされている方にとって心の仕組みを知ることは、自分を癒し、人を癒し、他者の助けにもなります。この講座では、心理学の知識を整理し、初心者にもわかりやすく事例を通して学びます。
 2008年度日程：4月11日(金)～13日(日)/6月13日(金)～15日(日)/
 8月22日(金)～24日(日)/10月24日(金)～26日(日)/
 12月5日(金)～7日(日)/2009年2月6日(金)～8日(日)



内観セミナー
 【随時開催】

自身の過去を振り返り、父、母、仕事場の上司などとの人間関係の中で、①お世話になったこと、②して返したこと、③迷惑をかけたことの3点について調べていきます。その結果、自分を客観的にとらえることが出来、今後の生きるビジョンが見えてきます。日程・参加費はお問い合わせ下さい。



医師から学ぶホメオパシー
 講師 細谷律子 先生
 黒丸尊治 先生
 竹中恵美 先生
 (2008年)
 2月1日(金)～3日(日)
 4月4日(金)～6日(日)
 6月6日(金)～8日(日)
 8月1日(金)～3日(日)

講師は、英国ホメオパシー認定医の細谷律子先生、黒丸尊治先生、竹中恵美先生です。「医師による確かなホメオパシーを学びたい/家庭で使えるホメオパシーレメディを学びたい/真のホメオパシー治療を知りたい/自然治癒力を引き出したい」方対象。大自然の中であふれるいのちを体感する体感講座の2部構成プログラムです。
 2月：ホメオパシーによる治療の実際 / 4月：子供とホメオパシー
 6月：老いとホメオパシー / 8月：癌とホメオパシー



リーダーシップセミナー
 【随時開催】原則1週間以上

生活を通して学ぶ。心の持ち方、人との関わり、志。また中間管理職や教員、人を導く立場の方に必要な資質・能力を身につけます。リーダーシップを発揮するためにしっかりと人格を磨き、人を引きつけ導く力をつけていきます。



文化事業

スーザンオズボーンボイスセミナー
 2008年度開催予定

歌は魂の直接の言語であり、どんな人にもでも備わっていて、どんな場所でも通じ合えるコミュニケーションです。「長野冬季オリンピック・パラリンピック」で世界に熱唱したスーザンのセミナーです。あなたの心の声を解放し、自己の深いレベルでの癒しと気づきをもたらします。



ウォンウィンツァンワークショップ (2008年)
 9月13日(土)～15日(月)祝
コンサート 9月14日(日)

NHK「こころの時代」「家族の肖像」などの音楽でおなじみのウォンさんのセミナー。ウォンさんが大切にしているのが「いのち」とのつながり。自然の空間の中でつながり、今一瞬の音を奏でる魂のピアノです。体を横たえ完全にリラックスして聞くことができます。



青少年育成事業

自然観察会 戸隠散策 (2008年)
 5月23日(金)～25日(日)
 10月24日(金)～26日(日)

春は新緑が美しく、秋は静寂の中に朱色に染まる飯綱・戸隠の大自然。静かな時の流れのままに身を任せ自然を満喫しましょう。無農薬自然農法のお野菜をたっぷり使ったお食事と、天然温泉でのんびりと心も体も癒しましょう。



こけ玉グリーンアートセラピー
 【随時開催・日帰り】

こけ玉は私たちのこころの風景を映し出し、元気を与えてくれます。野山を散策し、自分の気に入った植物を集め、創作していきます。出来たこけ玉は手入れをすれば何年でも生き続けます。日程・参加費はお問い合わせ下さい。



社会復帰・自立支援事業

ワーキングスタディステイ
 【随時開催】

ライフスタイルを変えたい方、考え方・心の癖を直し、プラス発想したい方、生きる意味を見つけた方、輝いた生き方を求めている方など対象。スタッフとの共同生活・仕事・ミーティング・坐禅等、今を一生懸命生きることを通して学びます。日程・参加費はお問い合わせ下さい。



Webカウンセリング
 【随時開催】

財団では、Webカウンセリング事業(無料)を行っております。全国の青少年の皆さん、一人で悩まずぜひ連絡を下さい。日程はお問い合わせ下さい。

※参加会費の中には健康養生食、宿泊、夕食、講師謝礼が含まれます。

皆様の力を貸して下さい 青少年育成センター設立の 支援金を募っています

寄附総額 2,500万円
 期間 平成20年1月1日～
 平成20年12月31日
 1口以上 ※1口=10,000円

支援金お振り込み先

①郵便振替口座

00520-3-42181

名義 財団法人いのちの森文化財団

②八十二銀行本店営業部

普通口座 1093531

名義 財団法人いのちの森文化財団

青少年育成センター 「いのちの学校」概要

用地 宅地2,000坪

実習用農地14,000坪

施設 約100坪 (6部屋、食堂、バス・トイレ、ホール、談話室)

事業 概ね15歳から35歳ぐらいまでを対象とし、社会復帰を志す青少年のための社会教育事業を行います。

設立趣旨 現代社会は、環境、人口、エネルギーなど地球規模における課題に加え、心の喪失という文明病ともいえるものが社会全体に大きな陰を落としています。モノ的価値観が蔓延しはじめた20世紀後半の世界は人と人との繋がりは希薄になり、自然環境の破壊は地球の未来にも大きな不安を与えています。

その原因が私たち人類の意識の有り様に大きく起因しているにも関わらず、人類は今だその解決の方向を見いだしているとは言い難く、刹那的な風潮は若者達の心を蝕み始めていたと言っても過言ではありません。

本財団は「いのちの営みを原点として」そこから発する文化、芸術、教育、科学、医療、農林漁業、経済、哲学などあらゆる分野からの学びを通して、青少年の育成活動を推進する活動を行っています。

本財団の母体となっている「水輪の会」は20余年にわたり青少年の社会復帰支援活動をおこなってきており、今回の財団設立に伴い、青少年育成センター「森のフリースクール・いのちの学校」の開設を計画しております。畑作りは人づくりをめざし、14,000坪の農園づくりや誰もが憩える農業公園づくりにも着手します。

私たちは信州飯綱高原を学びのフィールドとして、この事業を推進してまいります。

ぜひ大勢の方々のご支援をお願い申し上げます。

● 次回評議員会・理事会のお知らせ

評議員会 平成20年3月9日15時～

理事会 平成20年3月9日16時～

会場 グリーンオアシス (長野県

長野市上ヶ屋2471-2198

電話 026-239-1102